

令和6年度福島県環境アドバイザープロフィール

R6.4.1

[地球環境]

渡邊 明 わたなべ あきら

📌 専門分野:地球物理学

📌 主な講演内容:地球温暖化、気候変動、異常気象、豪雨・豪雪メカニズム

📌 昭和 23 年生まれ。東京都立大学大学院理学研究科修了。福島大学名誉教授。福島市在住。

世界気候研究計画のプロジェクトなどに参加し、アジア地区の気象観測などを担当しながら降水システムなどについて研究してきた。現在、豪雨、豪雪、突風などの研究を行い、温暖化の実態や異常気象のメカニズムについて研究している。2100 年までの福島県の気候予測・評価を行った。

長橋 良隆 ながはし よしたか

📌 専門分野:地質学

📌 主な講演内容:火山噴火、破局噴火、火山災害、低地や湖の地質と古環境

📌 昭和 41 年生まれ。大阪市立大学理学研究科地質学専攻修了。福島大学理工学群共生システム理工学類教授。福島市在住。

過去 700 万年間の爆発的火山噴火史の解明とそれに基づく将来予測のため、九州から東北の火山地域、琵琶湖・野尻湖・猪苗代湖の堆積物、南海トラフと日本海溝の堆積物を対象に、主にテフラ(火山灰)層に関する研究を行っている。猪苗代湖の堆積物から読み解く形成史と古環境変遷史についても研究中である。

川越 清樹 かわごえ せいき

📌 専門分野:河川工学、水文学、自然災害科学

📌 主な講演内容:気候変動による水災害・水資源への影響、豪雨・雪氷融解に伴う災害発生機構と水環境変化等

📌 東北大学大学院環境科学研究科博士課程修了。福島大学理工学群共生システム理工学類教授。

国内外を対象に気候変動による水災害・水資源の影響、評価研究に取り組んでいる。また、この研究に関連し、豪雨、雪氷融解に伴う災害発生機構と水環境変化、および適応策の検討をグローバル及びリージョナルのスケールで展開している。

五味 馨 ごみ けい

📌 専門分野:地域環境計画、統合評価モデル、将来シナリオ

📌 主な講演内容:地球温暖化対策、持続可能な地域づくり、地域の定量的分析

📌 2010 年京都大学工学研究科特定研究員、2014 年国立環境研究所社会環境システム研究センター研究員、2016 年同福島支部研究員を経て 2021 年より現職。

専門は統合評価モデルを利用した持続可能社会シナリオの構築。これまで滋賀県、京都市、福島県新地町のほか、アジア地域で 17 の国・地域において各地域の行政担当者・研究者等との協力により地球温暖化対策を中心とした定量的な将来ビジョンを構築し分析結果を政策策定に提供。社会対話として3次元地図による環境情報のプロジェクトマップや SNS での情報発信にも取り組む。京都大学博士(地球環境学)

吉田 龍平 よしだ りゅうへい

📌 専門分野: 気象学

📌 主な講演内容: 気象予報、気候変動、異常気象、農作物生育予測

📌 昭和 58 年生まれ。福島市在住。東北大学大学院理学研究科地球物理学専攻修士(博士(理学))。福島大学理工学群共生システム理工学類准教授。気象予報士。

東北地方の気象予測と、気候変動による世界の作物生産変動の解析を行っている。気象予測・気候予測データの解析と農業分野への利用を進めている。

[原子力]

飯島 和毅 いいじま かずき

📌 専門分野: 放射性物質の化学、放射性廃棄物、環境放射能

📌 主な講演内容: 放射性廃棄物の処理処分における安全確保の考え方や放射性物質の移行挙動、福島県の中における放射性物質の移行挙動。

📌 1967 年東京都生まれ。1992 年東北大学大学院工学研究科原子核工学専攻修士課程修了。2009 年同量子エネルギー工学専攻にて博士(工学)取得。放射性廃棄物の処理処分、特に、地層処分における放射性物質の移行挙動と安全評価に関する研究に従事。2011 年 8 月より福島県に駐在し、除染モデル実証事業や、放射性物質の環境中における移行挙動の解明と将来予測モデルの開発に関する研究に従事。

[大気環境]

渡邊 明 わたなべ あきら

📌 専門分野: 地球物理学

📌 主な講演内容: 酸性雨、オキシダント汚染、放射能大気汚染

📌 プロフィールは、[地球環境] 記載のとおり。

佐藤 光 さとう ひかる

📌 専門分野: 星空観察

📌 主な講演内容: 天体観察全般

📌 昭和 26 年生まれ。福島市在住。福島天文同好会会長。

学校や公民館等での星座教室の講師を務める。福島市で平成元年よりスターウォッチングの観測・指導を行う。星座や天体観測(彗星や掩蔽(エンペイ)など)に造詣が深く、福島市近辺での「天の川の見える場所」や昔観られた天文現象、天文史跡の調査研究を行っている。

桂 伸夫 かつら のぶお

📌 専門分野: 星空観察

📌 主な講演内容: 天体観察、天体観測、光害

📌 昭和 25 年生まれ。いわき市在住。いわき天文同好会会長。

昭和 50 年のいわき市文化センターの開館に合わせて、いわき天文同好会を結成し、学校や地域団体からの依頼による天文観察指導や、天体観測をとおして、地域における社会教育活動を行っている。また、夏、冬のスターウォッチングの観測で、大気汚染、光害(こうがい)の環境に対する影響の啓発活動も行っている。

令和2年7月3日に所属のいわき天文同好会が『地域の環境保全につとめた功績』で環境大臣賞を受賞。

吉田 龍平 よしだ りゅうへい

📌 専門分野: 気象学

📌 主な講演内容: 気象予報、気候変動、異常気象、農作物生育予測

📌 プロフィールは、〔地球環境〕記載のとおり。

[エネルギー]

服部 靖弘 はっとり やすひろ

📌 専門分野: 再生可能エネルギー全般

📌 主な講演内容: 福島県の再生可能エネルギーの状況について

📌 平成 20 年 6 月 北芝電機(株) 社長。平成24年7月 福島県再生可能エネルギー関連産業推進研究会 会長。平成 29 年 4 月 「エネルギー・エージェンシーふくしま」代表。

「再生可能エネルギー先駆けの地」を目指す福島県で、関連産業集積に向けた産業界のネットワーク作りや産学連携活動の旗振役を務めている。令和6年4月、福島県の新エネルギー産業推進アドバイザーに就任。

柿崎 隆夫 かきざき たかお

📌 専門分野: 再生可能エネルギーとその応用、エネルギーネットワーク、再生可能エネルギーを利用した様々なシステム、持続可能な機械システム的设计論、ロボティクス及びヒューマンインターフェース、ほかシステム全般

📌 主な講演内容: カーボンニュートラルと再生可能エネルギー、スマートコミュニティ、再生可能エネルギー利用システム、持続可能なシステムについて、サステナブルな機械システムデザイン、フィールドロボティクス、SDGsとは、システム工学概論

📌 東北大学大学院工学部工学研究科博士課程前期修了。NTT理事を経て日本大学工学部機械工学科教授平成31年3月退職。産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所 FREA 外部研究員。博士(工学)。日本ロボット学会理事などを歴任。日本機械学会フェロー。

教育及び研究業務とともに、文科省「地域イノベーション戦略推進プログラム(復興)」日本大学工学部テーマリーダー、同「平成 24 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 福島県発の災害に強く自立共生が可能な住環境の創成に関する研究」プロジェクトサブリーダー、(独)NEDO 技術開発機構「一般住宅向け浅部地中熱利用システムの低価格化・高効率化の研究」プログラム研究代表者等を担当。

エネルギー・エージェンシーふくしま(E.A.F)のフェローとしては県内の再エネ関連産業の育成・集積のため、情報提供、各種支援、海外企業・研究機関との連携支援を推進。

中西 恒雄 なかにし つねお

📌 専門分野:身近な公害全般(大気・水質・リサイクル・騒音・振動・悪臭、特に、クリーンテクノロジー)、省エネルギーの分野

📌 主な講演内容:いわき市内の小学校・高校等で、主に、自然エネルギーに係る講座での講師を長年務めてきている。(今年度:平4小3回、いわき海星高校3回)。ボイラー協会講習会の講師として、複数の工業高校の生徒対象の講義を行っている。

📌 ①公害防止管理者(大気1種、水質1種、騒音・振動)で、身近な公害全般に詳しい。

②現役時は、地元の化学系企業に30数年勤務、工場長まで経験され、化学プラントの設計・維持管理等に豊富な経験を持ち、特に、エネルギー問題に詳しい。

③福島議定書の省エネ診断士として、長年、地元企業における省エネに係わるアドバイスをしています。

④地球環境問題、特に、熱エネルギーの分野に詳しい。

[環境マネジメント]

後藤 忍 ごとうしのぶ

📌 専門分野:環境計画

📌 主な講演内容:人と自然の共生を目的とした空間計画(エコロジカル・ネットワーク)、循環型社会の捉え方、総合的環境指標の開発、環境教育の役割と実践、環境メディアの特性、原子力・放射線教育のあり方等

📌 昭和47年大分県生まれ。大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻修了(博士(工学))。福島大学理工学群共生システム理工学類教授。福島市在住。

福島県環境審議会委員(2004～2014年)。環境省容器包装廃棄物排出抑制推進員(3R推進マイスター)。福島市環境審議会委員。ふくしま環境基本計画推進協議会会長。福島市環境教育事業「ふくしまエコ探検隊」講師。ビオトープ計画管理士など。

物事のつながりを重視して総合的に捉えるシステム思考に基づいて環境問題を把握し、解決のための様々な手段を組織的に配列して、人間と環境へ能動的に働きかける環境計画のアプローチを研究している。3.11後は、原子力・放射線に関する教育やメディアのあり方についても研究・教育・社会活動を行っている。

河合 直樹 かわい なおき

📌 専門分野:化学物質管理、化学物質リスクコミュニケーション、エコアクション21、労働安全衛生管理、省エネルギー

📌 主な講演内容:化学物質とどのように付き合うか、職場における化学物質管理、地球温暖化と私たちの暮らし、はじめよう!エコアクション21

📌 昭和30年生まれ。山形県山形市在住。河合環境コンサルタント事務所所長。化学物質アドバイザー(環境省)、技術士(環境部門)、環境計量士、環境カウンセラー(事業者部門)、エコアクション21審査員、エネルギー管理士。中央大学理工学部工業化学科卒、民間環境測定分析機関勤務を経て現職。環境NPO代表。

創意工夫をしながら、「分かりやすい」「退屈しない」プレゼンテーションを目指すことをモットーに、事業所や学校等で幅広く講演活動を行っている。

渡邊 邦雄 わたなべ くにお

📌 専門分野:環境マネジメント、環境対策

📌 主な講演内容:ISO関連、地球環境問題等

📌 昭和 37 年生まれ。郡山市在住。福島大学行政社会学部行政学科卒。LRQAに勤務。

ISO審査員、エコアクション 21 審査員、環境カウンセラー、エネルギー管理士、作業環境測定士、公害防止管理者、心理相談員、他多数の資格を所有。

前職では、ISO認証取得のための事務局や管理責任者を担い、省エネルギー、大気、排水、騒音・振動、産廃物、悪臭、土壌等の幅広い環境問題を解決してきた。

現在は ISO 認証機関 LRQA(ロイドレジスタークオリティーアシュアランスリミテッド)にて ISO9001・14001・45001 の審査、講師を担当。その他郡山労働基準協会、ボイラー協会福島支部、福島産業保健総合支援センター日本規格協会にて講義を担当。

戸川 卓哉 とがわ たくや

📌 専門分野:地域環境

📌 主な講演内容:地域づくりと環境共生

📌 国立研究開発法人国立環境研究所・福島地域環境研究拠点、主任研究員。

1977 年兵庫県生まれ。2010 年に名古屋大学大学院環境学研究科にて博士(工学)取得。

2012 年より国立環境研究所勤務、地域の環境資源を有効に活用して災害復興や地域活性化を実現するメカニズムに関する研究に取り組んでいる。

[水環境]

中村 玄正 なかむら みちまさ

📌 専門分野:環境工学、衛生工学

📌 主な講演内容:水質保全、猪苗代湖の課題、健全な水環境の創造めざして等、健全な水環境と循環型社会

📌 昭和 16 年生まれ。東北大学大学院工学研究科博士課程科目修了(退学)。郡山市在住。日本大学名誉教授。NPO 法人輝く猪苗代湖をつくる県民会議 名誉顧問。

猪苗代湖や阿武隈川、三春ダム等の水質汚濁防止についての研究や、自然浄化作用について調査研究を行っている。また、水環境と有機物循環、水系における窒素、リンの課題等についても研究を進めている。環境教育のために豆腐や枯死水草、枯れ葉等を利用して水質汚濁現象や富栄養化現象について説明するとともに、水質汚濁防止や富栄養化防止対策についても提案している。

橋本 孝一 はしもと こういち

📌 専門分野:衛生工学

📌 主な講演内容:河川環境、上下水道等

📌 昭和 18 年生まれ。東北大学大学院工学研究科修士課程修了。いわき市在住。福島工業高等専門学校名誉教授。NPO 法人いわき環境研究室顧問。

都市河川の汚濁物質の挙動解析や「親水性」のある河川空間の創造等に関する研究等を行っている。また、「NPO 法人いわき環境研究室」の活動をとおして、地域における環境保全活動を積極的に支援するとともに、「夏井川流域住民による川づくり連絡会」の代表世話人として夏井川水系水環境の再生に尽力している。平成6年度に「水環境賞」(環境庁水質保全局長表彰)、令和元年度に河川功労者表彰(公益社団法人日本河川協会)を受賞した。令和2年度に環境大臣賞を受賞した。

塘 忠顕 つつみ ただあき

📌 専門分野:昆虫学

📌 主な講演内容:水生生物、水環境保全、昆虫、生物多様性

📌 昭和 42 年生まれ。筑波大学大学院生物科学研究科生物学専攻修了。福島大学理工学群共生システム理工学類教授。福島市在住。

河川及びその周辺の自然環境のあり方を考えるための基礎資料蓄積のため、河川に生息する底生動物相の調査を県内各地で実施。地域などでの水環境保全活動の支援を行っている。

藤田 豊 ふじた ゆたか

📌 専門分野:環境水理学

📌 主な講演内容:猪苗代湖の自然浄化機構、猪苗代湖の水温成層の変化と物質輸送、水草枯死後の水質に及ぼす影響、長瀬川河口周辺の地形変化、猪苗代湖における漂着廃棄物、川のはなし

📌 経歴:昭和 24 年新潟県新津市(現在新潟市)出生。昭和 49 年 3 月日本大学大学院工学研究科修士課程修了。

同年日本大学工学部土木工学科助手・専任講師・助教授・准教授・教授、平成 27 年 3 月定年退職。平成 27 年 4 月～令和 2 年 3 月日本大学工学部研究員(上席研究員)。平成 20 年学位取得、博士(工学)。平成 28 年 4 月～NPO 法人輝く猪苗代湖をつくる県民会議 理事

海外派遣:多自然型川づくり調査のため欧州諸国を歴訪(平成 5 年)。

社会活動:NPO 輝く猪苗代湖をつくる県民会議理事(平成 28 年 6 月～)、地球にやさしい”ふくしま”県民会議県中地方会議代表(平成 28 年度～令和 4 年度)、県中都市計画事業審議会委員など。

著書(分担執筆):水理学(理工図書)、日本の水環境 2 東北編(技報堂出版)、日本の河口(古今書院)、ACF 福島学シリーズ②福島の水(歴史春秋出版)

平川 英人 ひらかわ ひでと

📌 専門分野:自然環境・水環境(特に、河川・海域等の魚類の生態)、生態系(外来種による生態系への影響について)

📌 主な講演内容:いわき市内小中高校(三和小、平 4 小、好間 4 小、中央台南中、泉小、いわき海星高)での「水環境」の学習支援講座では、長年、児童・生徒の川での生き物調査の現場で直接指導に当たってきている。支援時の講義では、川に棲む魚類や外来種等、河川生態系の話をつかりやすく参加者に説明している。

📌 ①現役時代は、県の水産試験場や内水面水産試験場に勤務し、魚類の生息実態と環境との係わりについて深い知識を持っている。

②特に、外来種が河川生態系に与える影響について詳しい。

佐々木 清 ささき きよし

📌 専門分野:水環境(特に河川底生水生生物による水質調査)、環境教育・放射線教育

📌 主な講演内容:「地域を流れる河川の水質変化を探る～水生生物と理化学的な水質調査を通して～」,「科学的に探究する力を育む放射線教育 10 年の歩み」、日本原子力学会東北支部功績賞記念講演「福島第一原子力発電所事故以降における福島県内放射線教育の展開」、環境教育出前講座や放射線教育出前授業を実施。ならびに、地域を流れる河川の水質調査や SDGs 学習の支援活動を行っている。

📌 昭和 31 年生まれ。本宮市在住。前中学校理科教諭。自然科学部を創設し、地域を流れる河川の水質調査を継続して行う。2004 年日本学生科学賞中央審査で環境大臣賞を受賞。退職後、福島県環境創造センター交流棟教育ディレクターとして、コミュタン福島の体験研修プログラム等の開発に携わる。また、2021 年度より3年間、福島大学共生システム理工学類客員研究員として、河川の底生水生生物の分類・同定法を学びながら、「安達太良川流域の季節による水質変化」の調査研究を進めてきた。2023 年より、NPO 法人輝く猪苗代湖をつくる県民会議事務局として、安達太良川流域とともに猪苗代湖の水質調査研究を行い、水質汚濁防止啓発に向けた水環境保全 SDGs 学習のプログラム開発と教材作成を進めている。

[水資源]

柴崎 直明 しばさき なおあき

📌 専門分野:地下水盆管理学、水文地質学、応用地質学

📌 主な講演内容:地下水盆の構造と地下水の流動、地下水の保全と有効活用

📌 昭和 35 年生まれ。信州大学理学部地質学科卒業。国際航業株式会社・地質調査事業部、インド国立地球物理学研究所・客員研究員、国際航業株式会社海外事業部勤務を経て、平成 16 年福島大学理工学群共生システム理工学類教授へ。

地下水盆の構造と地下水の流動を明らかにし、地下水の保全と有効活用をめざす研究に取り組んでいる。

川越 清樹 かわごえ せいき

📌 専門分野:河川工学、水文学、自然災害科学

📌 主な講演内容:気候変動による水災害・水資源への影響、豪雨・雪氷融解に伴う災害発生機構と水環境変化等

📌 プロフィールは、〔地球環境〕記載のとおり。

[自然]

埜 忠顕 つつみ ただあき

📌 専門分野:昆虫学

📌 主な講演内容:水生生物、水環境保全、昆虫、生物多様性

📌 プロフィールは、〔水環境〕記載のとおり。

弦間 一郎 げんま いちろう

📖 専門分野:野鳥観察、森林環境教育、里山保全、鳥類生息環境調査・保全

📖 主な講演内容:野鳥の保護と観察、里山の保全、幼児・小学生の自然体験

📖 昭和 31 年生まれ。福島市在住。

野鳥の観察や野外での自然観察の方法、また、生物と自然保護に造詣が深い。

福島県野生動物植物保護アドバイザー

福島市小鳥の森アシスタント・レンジャー

星 一彰 ほし かずあき

📖 専門分野:自然観察

📖 主な講演内容:自然保護、環境教育

📖 昭和 8 年生まれ。福島市在住。東京教育大学(現筑波大学)卒業。元県立高等学校教諭、福島県自然保護協会会長、福島県自然保護観察指導員連絡会代表、尾瀬保護財団評議員。

尾瀬や裏磐梯の自然環境を調査研究し、環境教育や環境学習の指導・助言に当たっている。特に、環境の状況を生物の状態や変化をとおして観察し、汚染物質による生物への影響や動植物の生活環境の多様性に関して造詣が深い。

齋藤 忠雄 さいとう ただお

📖 専門分野:昆虫観察、自然観察

📖 主な講演内容:昆虫観察、自然観察

📖 昭和 27 年生まれ。福島虫の会会長、日本鱗翅学会自然保護委員、河川水辺の国勢調査アドバイザー、ビオラ押し花&昆虫館館長。

ビオラ押し花&昆虫館(福島市荒井アンナガーデン内)を開設。子供たちに昆虫をとおして自然に興味をもってもらうため、所蔵している昆虫を公開し昆虫や自然について説明している。福島県内の環境調査(動植物全般)を行った経験がある。

佐藤 公 さとう ひろし

📖 専門分野:火山防災、火山教育

📖 主な講演内容:活火山の防災、火山のすばらしさと恐ろしさ、ジオパーク

📖 昭和 31 年生まれ。郡山市在住。日本火山学会 防災委員会委員。福島県火山防災協議会委員。

磐梯山噴火記念館館長。

学校や公民館などで、火山についての講師を務める。磐梯山をフィールドとして、周辺での火山ジオツアーの案内なども行う。学校などでは、噴火の実験を取り入れ、楽しく火山を学ぶことができる。

鬼多見 賢 きたみ けん

📖 専門分野:猪苗代湖の自然、環境保全活動、水環境

📖 主な講演内容:猪苗代湖の自然と環境等

📖 国立磐梯青少年交流の家企画運営委員、猪苗代湖観光推進委員理事、福島県教育委員会特別講師。全日本スキー連盟指導員・公認パトロール、エコリーダー・川の案内人、環境アドバイザー、日本体育協会スポーツ指導員。

猪苗代湖の自然を守る会の代表を務めており、猪苗代湖の自然や環境に造詣が深く、「猪苗代湖ノ白鳥 2000」「猪苗代湖のアサザ・マリゴケ他」「猪苗代の自然ト環境他」などの著書を出版している。

平川 英人 ひらかわ ひでと

📌 専門分野: 自然環境・水環境(特に、河川・海域等の魚類の生態)、生態系(外来種による生態系への影響について)

📌 主な講演内容: いわき市内小中高校(三和小、平4小、好間4小、中央台南中、泉小、いわき海星高)での「水環境」の学習支援講座では、長年、児童・生徒の川での生き物調査の現場で直接指導に当たってきている。支援時の講義では、川に棲む魚類や外来種等、河川生態系の話を分かりやすく参加者に説明している。

📌 プロフィールは、〔水環境〕記載のとおり。

星 昇 ほし しょう

📌 専門分野: 里山史、植生景観史、植物学、生物多様性

📌 主な講演内容: 静岡大学公開講座「里山の性格とその変貌・史資料に見る山林利用の変遷」(2008)。福島県野生動植物保護サポーター研修会「里山の自然」(2013)。第69回全国植樹祭開催記念“もり”がたりシンポジウム(2016)。福島県もりの案内人養成講座「田園の景観」「植物の名前の由来と観察」(2012～)。

📌 昭和54年生まれ。東京都立大学大学院理学研究科生物科学専攻修士課程修了。天栄村在住。

天栄村湯本地区の自然環境を調べ、守り、生かす専門家組織「湯本森・里研究所」を主宰。生物多様性の調査、近世以降の各地の里地・里山の環境の変化の研究、地域資源を生かした新しいライフスタイルの実践を行っている。

水澤 玲子 みずさわ れいこ

📌 専門分野: 島しょ生態学、植物の繁殖生態学

📌 主な講演内容: 生物多様性、島しょ生態学、送粉生態学など。

📌 2013年京都大学農学研究科森林科学専攻博士後期課程を修了後、私立高校の非常勤講師を経て、2014年から現職。

主な研究テーマは、クサギ属植物の進化生物学的研究、島嶼生植物の繁殖様式の研究、尾瀬の植物の送粉生態学的研究など。

〔廃棄物〕

長澤 利枝 ながさわ としえ

📌 専門分野: 一般廃棄物、環境教育

📌 主な講演内容: ごみの減量とリサイクル・環境保全、省エネ、地球温暖化防止、災害被災地環境問題等。

📌 昭和17年生まれ。南相馬市原町区在住。相双地方地域再生創造プロジェクト実行委員会、NPO法人福島環境カウンセラー協会特別顧問、うつくしま地球温暖化防止活動推進員。

ごみのリサイクルに関連した市民のネットワークづくりや実践活動を積極的に展開している。「東日本大震災」以後、被災地住民として津波・原発の現状と課題についての依頼が多い。震災復興再生の事業を実施している。